

生徒指導

多様な児童・生徒を
チーム学校で支える

「生徒指導の教科書」として活用されてきた「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂される。協力者会議の委員を務めた、日本学校心理学会理事長の石隈利紀・東京成徳大学教授に、改訂のポイントと今後の生徒指導の在り方について解説を寄せてもらった。

令和4年の「生徒指導提「改訂版」は、子ども社基に、「改訂版」で示され要の改訂版（以下「改訂会の変換、法制度の改革に、今後の生徒指導の指針を版」）が近々公表される。応じ、そして生徒指導の実お伝えしたい。

一人一人の子どもの人権と意見を尊重する

「改訂版」では、子どもの権利の理解を重視している。今年6月公布の「こども基本法」を取り上げ、全ての子どもが個人として尊重されることなどを明記した。

心身ともに不安定な思春期の中学生の言葉や行動を、中学生の発達状況として理解し、意見表明として受け止めることが、教職員や保護者に求められる。子どもと言語能力が問われている。

もの訴える方法が未熟であるのも、子どもが何を言いたいのかを想像し、その言語化を支援する役割を持つのである。大人の教育力、言語能力が問われている。

多様な子どもの個性を発見し、認め、良さを伸ばす

「改訂版」では生徒指導の目的として、子ども一人一人の個性の発見と良さや可能性の伸長を挙げた。いじめや不登校はもちろん、LGBTsの生徒や発達障害の子ども」の尊重を宣言したのである。個性は、強いところ・弱いところ・育ちつつあるところを含めた、



石隈利紀
東京成徳大学教授
(日本学校心理学会理事長)

全ての生徒への生徒指導を基盤とした重層的支援

生徒指導は全ての生徒を
対象として、生徒の教育ニ
ズに応じて行われる。こ
れまでの「生徒指導提要」
では、①全ての児童・生徒を
対象とする成長を促す指導
（学校心理学の一次的援助）
②一部の児童・生徒を対象
とした予防的な指導（二次
的援助）③特定の児童・生徒
を対象とする課題解決的な
指導（三次的援助）の3層
構造であった。「改訂版」で
は3層構造を発展させ、4
層の重層的支援構造になっ
た。①が「発達支持的生徒
指導」と「課題未然防止教
育」に分かれ、②は「課題早
み上げられること」である。③
「困難課題対応」と呼ばれ、④
「困難課題対応の生徒指導
と」呼ばれるようになった。重要なことは全ての児童・生徒への生徒指導が基盤になり、一部の生徒への生徒指導と特定の児童・生徒への困難課題対応が積み上げられることである。

教科の指導と生徒指導の一体化

授業は、全ての生徒を対象とした生徒指導の場となる。教科の指導と生徒指導を一体化した授業づくりは、生徒指導の四つの視点、生徒の興味・関心に応じたるのである。

チーム学校による生徒指導

チーム学校では、教師、チームがあり、それらを徒の発達を全ての大人が支

「改訂版」の大きな特
は、八並光俊座長（日本
徒指導学会会長）のご厚
意によるデジタルテキスト
がある。全ての教職員、地域
援助者、保護者の手元（
Ｃ端末や携帯）に置くこ
ができる。生徒指導につ
いて、関連する法規やキ
ードについては、ワンク
ックで参考資料に飛ぶこ
ができる。そして教育現
場で「改訂版（Ver. 1
）を使いながら、児童・生
の教育ニーズや教職員ら
の意見に応じて、さらなる
訂版 Ver. 2 を作成で
ればと思っている。デジ
タルテキストだからできる
案である。

支えるのは、管理職のリーダーシップによるマネジメントである。全ての児童生徒の発達を全ての大人が支

文獻：石隈利紀・家近早苗
2021『スクールカウンセ
リングのこれから』創元社